第七次福井市総合計画審議会 専門部会 第3部会（第1回）

■日 時：平成27年6月19日（金）13:30～15:30

■場 所：福井市役所 別館4階 14C会議室

■出席者：別紙のとおり

■会議内容**1. 開会**

司 会

ただいまから福井市総合計画審議会第1回専門部会、産業分野、第3部会の開催をさせていただきます。委員の皆様におかれましては大変お忙しいところ、ご出席いただきましてありがとうございます。本日は、片川委員、高原委員、お2人の方から欠席の連絡を頂いておりますので、ご報告いたします。

それでは、始めに総合政策室長の山田より、ごあいさつ申し上げます。

2. あいさつ

事務局（山田総合政策室長）

皆様、こんにちは。本日はお忙しいところ、第七次総合計画審議会の第3部会にご出席いただきまして、本当にありがとうございます。

先日、審議会を開催いたしました。その際、私の方から七次の総合計画についての策定の在り方、方針みたいなことをご説明させていただいたところでございます。その際、六次の総合計画を基本的に引き継いで、七次の総合計画を作っていくというような趣旨の発言をさせていただいたかなと思います。その際に委員の皆様から厳しいご意見を頂いて、六次と七次と全然変わらないのはおかしいとか、そういう話を頂いたところがございます。

ちょっと市の考えを補足しますと、まず総合計画という性質上、福井市全体の行政全般にわたる今後の方向性を書き込む必要があるというところ。それと、ずっと市政はつながっていますので、どうしても引き継ぐところは引き継いで六次、七次とつなげていくというところでは、六次計画を無視して七次を作るというわけにもいかないだろうと思っています。前回の素案ではむしろその辺を強調した素案になっているのかなと思っています。

ただそうはいつでも、福井市の総合計画は、第六次の総合計画から5年計画としています。そういう意味ではまったくそのまま六次を引き継ぐというのではなくて、今後の5年間でどう考えて、特に焦点を絞るところは絞ってやるべきではないかというご意見ももったものなので、そのあたりは、本日は各論、産業分野の話を中心にさせていただきたいと思うんですけども、また全体を通して、これからの5年間を考えるうえでふさわしい将来都市像でありますとか、基本的な目標のところもいろいろとご議論いただきたいなと思っています。

それと、さらに今回地方創生という人口減少を前面に押し出して、その対策としての

総合戦略をどう作るかという話も、まさに今、福井市でも作り始めていまして、その多くの部分が、こうした産業分野の話に関わるところが非常に大きいかなと思っています。

そういうことで今、総合計画の審議をして頂くということにはなるんですけども、並行してこの総合戦略についてもいろいろご意見を頂く場を今後設けていきたいと思っています。総合計画はどうしても抽象的な意味合いが強くなるんですけども、特に総合戦略と絡めた話の中では、むしろ具体的な話も総合計画の中に入れ込む、柱の中に位置付けた方が、よりわかりやすいのではないかなとも思っていますので、そのあたりもご意見を頂いて、今の素案に特にこだわらずに、いろいろご意見、ご議論いただきたいなと思っています。

ちょっとあいさつが長くなりましたけれども、今日は基本的には委員同士でいろいろご議論いただきたいと思っておりますけれども、策定会議のメンバーおよび関係所属も来ていますので、ご質問等もいろいろ頂いて、密度の高い議論をしていただければと思います。どうかよろしくをお願いします。

司 会

それでは、ここで南保部会長より、ごあいさついただきたいと思っております。お願いします。

南保部会長

ご指名を頂きました、県大の南保でございます。

私事なんですけど、10日ほど前に高志中学で、90人ぐらいの子どもたちを相手に、福井県の経済と産業と企業の話をしてくれということで行ってまいりました。1時間半ぐらいお話しして、最後に子どもたちから感想を聞いたんですが、本当に素晴らしい答えというか感想を頂きました。

僕たちは福井のことをよく知らない、わからないと。私の話の中で福井の企業の話もしたんですが、福井ってこんなにすごい企業が、素晴らしい企業がたくさんあるじゃないの。それをちゃんと知っていれば、外に出ることもないと思えますよというふうな、非常に力強い、子どもたちの意見とも感想とも取れる話を頂きました。

本当に私たちは、507年継体天皇うんぬんから始まる福井の歴史について、あるいは現状について何も知らない福井人がいるのではないかと。やっぱり私たちはそういうことも知らなきゃいけないだろうというようなことから、そこがスタートラインかなみたいなことを、子どもたちから私が逆に学んだということですが。

いずれにせよ、経済というのは国家と企業と個人という3つの経済セクターがあって、昔は企業と個人、あるいは個人間、企業間の動きがすごく活発で、そこに利潤を生んできたんですが、これだけ、企業の経済活動、あるいは個人の経済活動がよくなると、あとは借金大国といえども国家からどれだけ金を地方が取れるか、それが地方創生であり、人口減対策であり、産業施策につながっていくんだろうと思いますので、そういうアイデアをいかに出すかというのが、この部会の意味でもあるかなと思います。

そんなことを踏まえたうえで、また各委員、先生方の忌憚のないご意見を頂きながら、私は交通整理ということでまとめていければと思いますので、これから先、よろしくどうぞお願いいたします。以上でございます。

3. 自己紹介

司 会

ありがとうございました。

それでは、第1回の会議となりますので、恐れ入りますが、委員の皆様から自己紹介を頂きたいと思っております。恐れ入りますが、林委員さんの方から順次お願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

林委員

福井の女性起業家交流会の会長として、こちらに参加させていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

見谷委員

市会議員の見谷でございます。今年の春の選挙で5期目を迎えます。どうかひとつ、よろしくお願いいたします。

宮崎副部長

福井商工会議所の宮崎でございます。商工会議所というと、会社とか経済のことをよくわかっているだろうなと思われませんが、さにあらず、よくわかっていないことも結構ありますので、また皆さんに教えていただきたいなと思っております。よろしくお願いいたします。

野坂委員

福井観光コンベンションビューローの理事長をやらせていただいております、野坂でございます。前回の第1回るときには、余計なことを話させていただきましたが、ちょっと趣旨が違っていたので、その辺はまた話をさせていただきたいと思っております。

会社は、繊維関係の仕事をやっていますので、そちらの方からできれば話をさせていただければと思っておりますので、またよろしくお願いいたします。

後藤委員

ハローワーク福井の後藤でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

司 会

ありがとうございました。

それでは、庁内に各部局の次長さんで構成しています策定会議の委員に、本日は同席いただいておりますので、次長のみご紹介させていただきます。都市戦略部の方からお願いします。

事務局（三谷都市戦略部次長）

都市戦略部の次長、三谷でございます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

事務局（倉商工労働部次長）

商工労働部次長の倉です。どうぞ、よろしくお願いいたします。

事務局（渡辺農林水産部次長）

農林水産部次長の渡辺と申します。どうぞ、よろしくお願いいたします。

4. 審議

基本目標3「みんなが生き生きと働くまち」について

【資料】・第七次福井市総合計画（素案）

・人口構造 および 転入・転出に関する追加資料

司 会

それでは、今後の進行につきましては、南保部会長の方をお願いしたいと思います。どうか、よろしくお願いします。

南保部会長

では、ここからは座って議事進行をさせていただきます。

まず今日、次第に沿ってということで、第3部会は、基本目標3、「みんなが生き生きと働くまち」について審議していきますが、まず事務局からその内容等につきまして、若干報告というか、ご説明がありましたらお願いしたいと思います。よろしくどうぞ。

まず、現状課題を踏まえたポイントの説明からよろしくお願いいたします。

事務局（山田総合政策室長）

若干、私の方から、今回七次総合計画を作るうえでのポイントだけご説明させていただきますと思います。資料(第七次福井市総合計画(素案))では16ページ、A3の資料になります。まだ施策がうまく書き込めていないです。

16ページからが、今回の部会で協議していただく部分でございます。この部会では、商工業を振興するということと働くことを応援すると、ちょっと薄めに書いていまして、これはうまく書き込めていない部分でありまして、このあたりを少し特化していきたいと思うんですけれども。

ちなみに、今取り組んでいるのは創業支援の強化、創業支援の事業計画を立てて、国の方の認定を受けて、創業者の支援に力を入れているというような話でありますとか、新事業を創出する支援でありますとか、去年は企業立地の戦略を作って、企業立地、特に県外企業をどんどん引き込むというのも1つですけれども、市内企業をどう大きくするかというような観点で、企業立地戦略というものを作っております。

それと地方創生、今は総合戦略がございしますが、いろんな交付金が来ますので、先行的に取り組んでいるものとしては、今日からスクール開設をしていますけれども、まちなかのリノベーション。それを軸に働くというものにつなげていきたいということでワーキングスペース事業みたいなことで創業拠点みたいなところをつくっていこうというような事業、あるいはU・Iターン就職促進なんかを、今この商工業、働く場では新規でいろいろ挙げさせてもらっています。

このあたりは、一番最初にも言いましたけれども、総合計画の施策の中でちょっと薄めに書いてありますので、その辺はいろいろ追加していきたいと思っています。これはこれから議論していただきたいんですけども、施策としての商工業を振興するということと、働くことを応援すると、総合計画では大きくこの2つで終わっちゃうんですけれども、その右側にいろいろ具体的に創業の促進とか、企業立地の推進を具体的に書いてあるところもあります。この辺をもっと重要だと思えば、上の方に上げるということも必要かなということ考えているところでございます。

17ページの観光につきましては、今、観光のいろんな取り組みをしていまして、シティプロモーションの推進でありますとか、観光資源をより磨き上げていこうとか、おもてなしというキーワードを作ってその充実を図るとか、前回の六次総合計画よりは充実した内容になっているのかなと思っています。

18ページのところの農林につきましては、稲作プラス園芸ということで、そういう園芸ということの部分も強調していくというようなところ。それと若者が希望を持てるような農業にしていくべきだというような観点で、去年は福井市の農業活性化プランというも

のを策定していますので、そういうところのエキスを取り入れて、総合計画に生かしていきたいというようなところを今、ポイントとして考えているところでございます。

事務局（総合政策室 落合）

総合政策室の落合と申します。

今、山田の方から説明がございましたが、続きまして補足というかたちで説明させていただきたいと思っております。

まず最初、16 ページ、政策の9です。こちらは先ほど説明がありましたが、商工に関する政策全般と雇用に関する政策、こちらの2本立てとなっております。皆さん、よくご存じだと思うんですけども、現状の課題といたしましては、人口減少社会、高齢化社会の進行、こういったことで今後、市内の企業は、99.4%が中小企業なんですけれども、企業の事業継続とか、あと地場産業の衰退なんかも非常に課題になっているかなと思っております。また、経済活動の中心が東京首都圏などへの一極集中とかが今後も進みますと、ますます首都圏と地方との経済格差が拡大しかねないということも懸念されます。

加えて、福井の方では、1度大学などで県外に出た場合、25%しかUターンしないということもございますので、そういった若者の県外流出といったことに今後も歯止めがかからないと、本市の労働力の不足がどんどん深刻化するんじゃないかなというところが考えられます。そういったことで今大きくこういう施策の中で、それらを克服するために、中小企業への支援、企業誘致、女性や若者の創業支援、それに加えまして、県外からのU・I・Jターン、これらの促進、推進をしていきたいと考えています。

次のページ、17 ページです。こちらにも、先ほど説明がありました観光全般に関する政策となっております。観光行政というのは、皆さんもご存じのとおり、近い将来の北陸新幹線の福井までの延伸。あとは、直近で言いますと2018年の国体、2020年のオリンピック。これらは福井だけじゃなくて、日本全国的にも大きなイベントや交通インフラの需要などがございます。そういったことは今まで福井にはなかなかなかった機会です。まさにこれが福井の観光をPRする絶好の機会じゃないかなと思っております。

ただ、昨年3月に金沢まで開業した北陸新幹線ですが、若干福井の方にも波及効果があるとはいえ、やはり同じ北陸の石川、富山との観光知名度の格差というのが拡大しているのもまた現状なのかなと思っております。

そういったことも踏まえまして、平成29年から5年間の施策としましては、今ある福井の歴史や自然を満喫できる観光資源の磨き上げ、特に福井市としては朝倉氏遺跡を強く推進していくところでございます。

あとは、やはり都心に向けたPRなどといったしまして、「朝倉ゆめまる」といったものを介した情報発信とか、あと首都圏へ向けた修学旅行や体験学習等によって福井市を売り込んでいくシティプロモーション、最後に、1度来ていただいた観光客が、また戻ってきたい、また来たいと思えるようなおもてなしの充実や、これからは国内だけでなく国外、インバウンド戦略も重要かと思っておりますので、それらに対する施策も盛り込んだところでございます。

最後が施策11、18 ページです。農林水産業の政策です。こちらの現状といたしましては、米や木材、魚などの価格の低迷。これらが事業者の経営に大きな影響を与えているという現状でございます。また農林水産業に従事する人の高齢化、あと中山間地域での鳥獣被害、これらによりまして、耕作放棄地が増加しているというような現状がございます。

こういったことを踏まえまして、施策の方では今まで行っております稲作のみならず、園芸分野の導入などによる複合経営といったことへの転換なども必要なのではないかな

と思います。あとは、耕作放棄地などの問題もありますが、農業施設や鳥獣被害、これからの対策を強化することによりまして、農地を守っていく必要がございます。

最後にそういった高齢化の進展によりまして、農業の就農者が少なくなってきておりますので、若者や企業参入を促進するためには、やはり農業所得の向上とか市内産の農産物の需要拡大、これらを推進する施策を盛り込んだところでございます。以上です。

事務局（総合政策室 山口）

引き続きまして、今日、追加資料を1つお出しさせていただきました。A4横の6、7ページのグラフが付いた資料でございます。こちらは前回、審議会のところで福井市の人口の転入・転出、こういったものがもう少し見えた方がいいのではないかと宿題を頂きました。ということで、福井市の人口推計と転入・転出の現況をまとめたものでございます。かいつまんでになりますが、ご説明をさせていただきます。

1ページ目です。こちらは1960年から2060年までの福井市の人口の現状と、2010年以降は推計でございます。前回もお話ございましたけれども、2010年が26万6,000人の人口が30年後、2040年には21万6,000人、約5万人減るとというのが社会保障・人口問題研究所の推計でございます。

1枚おめくりいただきまして、このときの年齢別の人口はどうなっているかということですが、ちょっと色塗りで書いてありますが、左下に凡例がございます。上の方から高齢者、65歳以上、真ん中が生産年齢人口、15歳から64歳、一番下が年少人口となっております。高齢化率が2010年には24.7%から40%になるぐらいまでぐんぐんと伸びていくということでございます。対して、真ん中の生産年齢人口は、16万4,000人から、2040年には10万9,000人と、5万5,000人減ります。先ほど人口が5万人減ると申し上げましたが、その分が、生産年齢人口が減るところがすっぽりその場所だということになります。

高齢化率は増え続けるんですが、じゃあ、高齢者はどんどん増え続けるのかということでもなくて、2040年、8万3,000人ぐらいを頭に実は数としてはそんなにもう増えません。それを支える若い方が減るので高齢化率は上がるんですけども、高齢者の実数というのは2040年ぐらいで頭打ちになるだろうという推計がなされています。

1枚おめくりいただきまして、それを人口ピラミッドで見ると、これは30年後になっております。真ん中が現在、平成22年の国勢調査です。30年前と30年後を並べてございます。1980年、30年前のピラミッドの形をしておりまして、30年後、2040年にはもうピラミッドの形ではなくなってございまして、少ない親、少ない子どもがまた親になって、少ない子どもと、負のスパイラルになっていくことが見て取れるかと思っております。

以上が人口の推計でございます。もう1枚おめくりいただきまして4ページ目、県外との転入、転出についてまとめたものでございます。年齢別、5歳階級別にまとめてございます。左側が男性、右側が女性となっております。グラフを見ますと上の方が転入、下の方が転出、折れ線グラフがその差し引きとなっておりますが、男性、女性、グラフの形はよく似ております。ただ違うのは、やはり男性の方が転入、転出ともにボリュームが大きいということが挙げられます。特に丸で囲んでございますが、20代、20歳から29歳のこのあたりの転入、転出のボリュームは非常に大きいということが言えます。差し引きにしてしまいますと、男性も女性もそう変わらない差し引きとなっております。

あと、20代のここを抜きますと、実は転入、転出とも意外に数字は均衡しているということが、折れ線グラフでみてとれます。ある程度の年齢になりますと、転勤でということと替わる場合には人が入れ替わるだけですので、転入、転出の数というのはそう変わらない、均衡しているのかなということが見て取れます。

では、次へまいります。5ページ目でございます。今は5歳階級で男女別に見ましたが、転入、転出の相手先はどちらが多いんだろうということで並べてみたものです。転入、転出の差し引き、いわゆる転出超過の大きい都道府県から、左から順番に並べております。石川県、東京都、大阪府、この順番に並んでおります。最後は新潟県と。新潟、奈良のあたりは、逆に転入が多いというかたちになっております。

差し引きで見ますと4番目、5番目、神奈川県とか静岡県という文字も見られるんですが、6番目、愛知県。差し引きとしてはそこそこですけれども、ボリュームは非常に大きく、本県とつながりが非常に深いのかなということがこれでも見て取れます。と申しましても、やはり首都圏、中京圏、近畿圏との転入、転出でほとんど大部分を占めており、また隣接する石川県ではボリュームも大きいですし、転出超過も非常に大きいということが見て取れます。

続きまして6ページ目です。ここまでは県外を見てきましたが、県内の他市町村ではどうだということで調べております。直近20年ほどのグラフを描いております。同じように上が転入、下が転出ということなんですけれども、20年前は転入超過も転出超過もあったんですが、最近ほとんど福井市に対しては入ってくる方、福井市への転入超過というところが多くなっています。

一番顕著なのは坂井市。10年前、15年前というのは非常に転出超過でしたが、コメントのところにも4番目に書いてありますが、住宅地価格との関連が非常に深いと分析しているんですけれども、マイホームを建築する際に坂井市を選択する人がどんどん増えていったのかなということで、相関係数も調べてみました。0.9と非常に強い正の相関が見られるということで、こういった傾向というのはある程度続いていくのかなということで、県内においては福井市への転入超過の傾向が、今後とも続いていくだろうという推測をしております。

以上、足早で申し訳ございませんでしたが、人口に関する追加資料のご説明とさせていただきます。以上です。

南保部会長

ありがとうございました。

今、「生き生きと働くまち」ということで、それに関する現状、課題、政策、施策、実施計画までについての話と、それから人口の話をしていただきました。人口って、これはもう非常にややこしいというか、人口問題研究所が勝手に試算して、大きなマイナスを指摘したものですから。もともと明治の日本の人口は3,300万人しかいなかったということを考えれば、福井県の人口って57万人からスタートしたんですが、2040年に63万人になると。福井の場合は、5万人ぐらい減るんだということですが、人口が減ることに対して、あまりに恐怖感を持ちやいけないなと私は思います。

ただ、いびつな人口構造の方が問題なので、それはやっぱり解決していかなくやいけない。だから、二方面から見えていかなくやいけないのかなということを思っています。あまりにも国の方が地方圏に対して脅しばかりぶつけてくるものですから、地方がいじけてしまっているという一面があって。窮鼠猫をかむじゃないけど、逆に政府をやっつけてしまうような、そんな施策みたいなものを地方が出していかなくやいけないなということを私は思っているんですが、いずれにしても、統計的には非常に厳しいデータが出てきてしまいました。

その中で、ここはあくまでも産業に関する部会ですので、今出た政策、施策、それから実施計画、その前の現状把握も踏まえて、各委員、先生方の思うところを、この政策が今

の現状と全然食い違っているんじゃないかとか、政策から出てくる施策がおかしいんじゃないかとか、さらにこれからの実施計画も、もうちょっとこっちの方面も必要じゃないかというような話を、ざっくばらんで結構でございますので、思い付くままに意見ください。現状の話でもいいし、現状から出ている政策の見方、これはおかしいよと。この前も野坂社長から大変厳しい話が出ましたが、その話でもいいですし、とにかく1回、皆さんが思っていることを何でもいいので、まずは今日がスタートでございますから、皆さんの思いを聞かせていただきたいと思います。

これはこれから先もずっと六次から七次、八次と繋がっていくものですから、私的にはあんまり大きくどんと変えてしまうというのはよくないかなと思っています。といいますのは、私の経験からいうと、日本全体を見てみますと、政策がぶれるところというのはあんまり進化しないです。一定の政策の下に、首長が替わっても同じ政策を打ち通していくというような地域は、やっぱり進化しますね、不思議と。

だから、基本的には政策が間違ったら駄目ですけど、政策がある程度納得できるのであれば、あとは施策とか実施計画の中身を吟味して、さらに濃い施策展開に向かっていく方向がいいのかなと思います。

それは私の意見ですが、各委員、先生方のご意見をこれから聞いていきたいと思いますが、どうぞございましょう。何でも結構です。具体的な施策、実施計画でも結構ですし、政策自体がおかしいという話でもいいですし、現状の話でもいいです。やっぱり地域が繁栄する、しないかというのは経済性の問題ですから、経済性がないところに地域の繁栄はないんです。

だから、この部会が一番大事な部会だと自分では思っていますので、ここのところできっちりしたことを出していないと、他の部会も全然機能しなくなるということも考えられます。そんなことも踏まえてご意見をお願いしたいなと思いますけれども、どうでしょう。どなたか。

見谷委員

一番最初にいいですか。思っていることで。

南保部会長

どうぞ。思っていることで結構です。

見谷委員

政策のこういうのを見ると、もう答えは出ているんじゃないかと。というのは、きめ細かな支援が必要であるとか、新たな担い手、創業の促進が必要であるとかいう、もう政策の中で答えが出ていて、この政策が施策に変わっていくわけですが、もうこういうことをしないといかんということはわかっている。

それを今度施策に反映させようとしていくときに、委員からすると、いろんな今日までの統計とか結果に基づいて、こういうふうに結論付けているところはわかるんですが、こういうことが必要であるとわかっているんだったら、行政の方に、人口減少問題も非常にクローズアップされていますが、そういうものにどう結び付けていったらこういう施策が考えられるのかというのを、私ら6～7人のこの委員会で話をするよりも、行政の方の汗のかき方というのかな、もっとそういう作業の場面の中で、皆さんが感じられることをもう少しここへ出していただくと、もう少し話がしやすいのではないかなという気がするんですけど。これは私の思いでしゃべらせていただきました。

南保部会長

日常的な施策を打っている行政側から、何かもっとより細かい課題を出してくれた方がいいかなみたいなお話ですね。

見谷委員

話がしやすいんじゃないかと。

南保部会長

他はどうでしょう。何でも結構です、野坂さん。

野坂委員

前回申し上げたのは、何をやりたいのかという戦略性が出ていないから、同じことをやってもわかりづらいということであって、どこに重点があるかということを上げたので、継続性とかそういう問題ではないので、それはちょっと誤解していただくと困るということですよ。

それから、他の資料を見ていて、一番最初の16ページ、やらのあかんというのは見谷委員さんがおっしゃられましたが、具体的にこれが出ていないということはない。商工振興策とか、U・Iターンとか、具体的に課題を挙げているんです。しかし、できていないからこういうことになっているんじゃないかなと、逆に受け止めました、私としては。

おっしゃるようにここで議論してもわからない。だから、もっと他の成功事例をいろんなところで見せてもらって、こういうことをやっていますよというような資料を出してもらわないと、この商工業、本当にここは大事だと言うけど、実際、今までやったことで、企業誘致をしますとか、創業支援をしますとか、いろんなことを言っているけど、やれたのかということだね、六次で。それもいっぺんきちんと出してもらわないと、言葉だけやっても全然、実際できない。

見谷委員

答えはわかっているんですけど、行政というのは。

野坂委員

いやいや、なかなか。施策は。

見谷委員

やらのあかんということはわかっているんだけど、そういうことが。

野坂委員

山田さんはもともと商工振興課長だったので、なかなか苦戦したんだろうと思うので。具体的にやることが出ていないというか、どうしたらいいのかというのが出ていないんじゃないかという気はしています。

それから、丹南地区や坂井地区には工業誘致したりしていたけれど、過去の事例で福井市内はあんまりやっていない。これもいろんないきさつがあったのかもしれないけれど。

何か考えがあったのか、過去事例もやっぱり見せてもらわないと語れないなということですよ。

17ページは、私がやったんだからやらなきゃいけない話ですが、これは別にしておいて。18ページに関して、農業施策。こうやって出ているが、本当にこんなので若者が希望が持てる農業、水産業の町をつくる、用水路をつくるとか、そんな整備をするというようなことだけで本当にやれると思っているのかどうかも、これも非常に問題だと思います。実際問題、施策をできるかどうかという問題もある。

前回、確か「若者が希望を持てる」というようなことを書くとまずいんじゃないかというように委員さんがいて、福井の魅力ってどれだったか、「魅力ある豊かな農林水産業の」という名前に切り替えたような記憶があるんだが。具体的に決まった内容を見ていって、本当にこの六次の期間にやれたのかどうかというのは非常に問題だなと。

むしろ、私も逆にやれないことも。こんなことを言っても、実際問題の施策としてこうして書いているが、建前であって、実際はできていないというか、予算もあると思いますが、そういう問題をはらんでいるなど。施策もぶれがないとかいうけど、そこら辺は、書いておかないとまずい。農業関係の議員さんがいてあれだけど、書いておかないとまずいということで、やらなあかんのかどうか、そこら辺も私はよくわからないという具合で。本音のところはそうです。

もう1つ、戦略会議にあるんだと思うんですが、人口の話は出たんだから。税収の見通してどうなるんだろう。この辺は何か試算というのはあるんですか。税収それから社会保障でも、幾らぐらいを投資できるのか。

これも、施策を書いてもお金がないという話になると、総合計画は網羅的に書いてあるけど、実際にやれるのか、お金もないのに。これも、正直、計画といっても、お題目だけ並べるのが計画だったらそれでもいいかもしれないというのが、私としての正直な意見です。厳しいようですけど。

南保部会長

ありがとうございます。私も思うんですが、ほとんど施策とか、細かい事業であっても、結局、結果が出てこないから、やっぱり同じようにまた打たなきゃいけない。それは何で結果が出てこないかといったら、私は人だと思うんです。それをやっていく人が、どこまで本気でやっていけるかどうかというところに、やっぱり限界があるのかなという気がするんですが。確かにお金ではありますけれど、お金がなかったらできないですから。

野坂委員

やっぱりやれるものをある程度絞っていかないと、選択と集中という話をされたかと思うけど、それも論点としては必要じゃないかという気はしますよね。

南保部会長

自由に何でもおっしゃっていただいて結構かと思しますので、どうでしょう。宮崎さん、思うところを。

宮崎副部会長

なかなか難しいなと。皆さんがおっしゃっているんですけど、まず第一に思うのは、これで第七次目ですから、6つ作ってきたわけですから、その成果というか、実績がどうなっているかという検証がどこまでされているのかなと。まずその見直しがあるべきだろうなと。これ、そもそも論ですけどね。それが無いのに、継続性の下でまた七次を作りましょうといっても、それはまさしく計画だけを継続しているだけで、本来の福井市の総合計画として機能するものになるのかなという疑問がまずありますね。まずその検証をやるべきだろうなと思います。

それから、先ほどの商工と働くことをやるという大きな枠組みの中で、観光という話が出ましたが、福井県の経済なり産業の中で、観光はどういう位置付けなのかということがまずされていない。これは具体的にどういう意味かという、例えば鹿児島県の観光の位置付けと、福井県の観光の位置付けでは、僕は全然意味が違うと思います。

観光を磨きましよう。福井の資源を磨きましよう。もてなしをやりましよう。それは一般論としてはまさしくいいんですが。それは鹿児島へ行って見てきて、鹿児島はこんなことをやっているのだからしなきゃいけないんだ。あるいは、沖縄でもいいです、見てきて、こうやってやる。それはやっぱりちょっと違うでしょうと。もう一度、じゃあ、福井の観光ってどんなことをしたらいいのか。石川は、あんなでっかいものをつくったりして、茶屋街をつくったり、何とかあれをまねしなきゃあかんのやといっても、それは違うでしょうということですよね。だからその考え方も、もう1回ちゃんとしなきゃいけない。

同じことは農林水産業についても言えると思います。福井市の産業の中で、これはどういう位置付けになっているんですかということ、皆さんが認識してからじゃないと、農林水産業の振興なんかできっこないだろうなと思っています。

それから、人口の統計というのは、政府が発表するいろいろな統計の中で一番正確だといわれていますから、たぶん今日提出していただいたこの資料にほぼ近い人たちで、人口は減少していくんだらうなと思います。そうすると、経済というのはいわゆる働き手の数と、それから生産性の問題になりますので、生産性がこのままであれば、福井市の経済の規模というのは縮小していくのは間違いない。

そうすると先ほど野坂委員がおっしゃったように、じゃあ、税金はどうなるのと。それから、行政としていろんなことの振興でお金を本当に使えるんですかという問題も出てくるだろうし、そのところはいったいどうなるのかということも検証しなきゃいけないだろうと思います。

これは総合政策だから、僕は非常に肯定的に見て、大きなものだろうなとは思いますが。ただ、それを作るのにやっぱり細かい議論が前提としてないと、みんなが集まって「ほやのう、ほやのう、そういう方向やの」と言って出したのと、結構細かい議論をして、「やっぱりこれしかないね」と出てきたものとは、たぶん同じものが出てきても、その後福井市がいわゆる施策として落としてやっていくうえで、全然違ってくると思うんです。

そのところをもうちょっと吟味しないと、つらいだろうなと。もちろん日程はあると思うんですが、少し詳しく市の方からも資料のご提出をしていただいて、われわれもしっかり勉強していく

ことをやらないといけないなと。ちょっと入り口論ですけど、そういう思います。

南保部会長

ありがとうございます。

事務局（山田総合政策室長）

ちょっと私の方から。六次総合計画は、まだ途中なんですけれども、六次総合計画を作った後に実施計画というのを行政の方で作って、この前もお渡ししたかと思いますが、そこでこういう実施計画書を作り、その中に一応その施策を実現するためにどういう目標を設定すればいいのかということで、細かく目標設定をしています。これの達成状況は、毎年毎年、部局のマネジメントというところでチェックはしています。

六次総合計画はまだ終わっていないので、最終チェックはしていませんが、そういうところでしっかりとやってはいるんですけど、個別に落とし込めば。全体としてそれがどうなのかという、さらに大きなところの評価というのはなかなかしにくいので、個別に落としてそれをそれぞれの目標達成はどうかというのはやっています。その辺は言えるんですが、全体の評価として六次はどうか、五次がどうかということは、なかなかやっていないというのが現状でございます。

あと、人口減少とそのためのやる財源なり規模というのは、確かに人口減少とそのために生産性が落ちることによる市の財政規模がどこまで落ちるかとか、それは確かにやっていないです。財源は、現在はそんなに減っていないと思っております。

ただ、その財源構成が変わって税収が減ってくる代わりに、国の補助がちょっと増えたり、市債が増えたりという状況で、どうにかこうにか今やっているという現状で。それからずっと先、20年、30年先、そこをどういうふうにやっていくかというような予測は立っていないのが現状です。

宮崎副部長

国の補助そのものが危ないわけですから、これから先は。だから親方日の丸はもうないわけですから、そこもやっぱり極めて大事なことだと思っています。

野坂委員

社会保障料は毎年増えていくんでしょう。

事務局（山田総合政策室長）

増えていますね。

野坂委員

そういう問題があるので、使える財源はどんどん減っているという理解ではいるんですね。

事務局（山田総合政策室長）

ちょっと前回の資料でもお示したように、社会保障はぐっと上がっている。今はどうか国の補助がまだそんなに減っていない、むしろ増えている状況なのでやっていけるという状況です。

宮崎副部長

確かに高齢化率は上がるんですが、人が減るんです、年寄り。それは山を越えれば、そんなに死ぬ人は増えませんから。増えませんか、年寄りは増えていきませんか、いいんですが、それ以上に生産年齢人口がぐんと減りますから、それはやっぱり大変な危機です。

南保部会長

おそらく、生産年齢人口の定義から変えていかなきゃいけないと思います。

野坂委員

70歳までになると。

南保部会長

そうなるとまたぐんと増えるんですね。人口問題研究所のこの推計は当たるといいますが、社会学者とエコノミストの言うことを私は信じていないです。これは絶対変動していくんです。その変動に合わせて施策を打っていくので。

例えば今の出生率だって、今いったん落ちたでしょう。年度ごとにやっていくから、また変わるんですよ、微妙に。そうすると長いスパン、短期、中期、長期で見て、せいぜい短期で何をやっていいかとか、中長期で財政も含めて、財政がこうなるからこういうふうな方向に持っていかなきゃいけないとか、時間軸で切った見方もここになってくると必要かもわかりません。これだけのビッグデータを国が出しているわけですから。た

だ、あんまり私は、年なのかもしれませんが、国の言うことは信じていません。

それと、おそらく高齢者への予算というのは、ものすごくこれから、2025年までに十兆円をまたばっさり切られますよね。切られて、それが若者支援に回っていくわけでしょう。その高齢者を日本の地方に持っていこうと、これは、地方は大変なことになっちゃいますよね。もうける手段がないわけですから。結局、今度は健康保険だって個人負担で、社会保障じゃなくなっちゃうみたいなの、アメリカナイズされていくような、そういうシステムになっていくんでしょうけど、だんだん暮らしにくくなっていくのは間違いない。

そうはいうものの、地方としては何かやっていかないといけないわけですから。ただ、あんまりネガティブなものに巻かれたくはないというような、そういう気持ちは持っているんです。確かに40年後、私はもう生きていないですが。

野坂委員

これ、しゃべるのはどうかなと思うんですが、財政的な見通しというのは少ないと思うけど、過去10年前と5年前と現在とで、だいたい社会保障上の予測というのは出てくると思う。今後の予測も含めて比率とか、そういうのは当然、優秀な山田室長さんなので、お金はどうなるんだという見通しはある程度把握されているのでは。

事務局（山田総合政策室長）

ちょっとそこら辺は弱いんですが。

野坂委員

だけど、今、政府の起債はどうなっていて、どういう割合になっているとかという時系列のことは、作れるんじゃないかと思う。それは、別にこの総合計画に活かさなくても、戦略的に将来、これだけは財源があるかもしれないとか、そういうところは考えておいてもらわないと、たぶん市長もやりにくいんじゃないかなと。

事務局（山田総合政策室長）

財源見通しの短期というと、5年ぐらいとかそのぐらい先はちょっとやってもいいかなという気がするんですが。総合計画のときにずっと先とか、総合戦略で先を見越してやる。

トレンドはちょっと予測できますが、その辺もまた財政とも相談しながら考えてみたいと思います。

南保部会長

後藤所長、どうですか。

後藤委員

私は雇用の立場からちょっと言わせていただきますと、今のU・I・Jターンの促進ということですが、実は私も平成2年から県の方におりまして、Uターン対策の県の予算担当をやっていました。そのときに福井Uターンセンターを平成3年に立ち上げまして、まったく今と同じようなことをやっていたわけでございます。なおかつ、そのときには確か栗田県政の中で、「生活満足度日本一の人口100万人県・福井」を目指すということで、Uターン促進に力を入れ、結構県の予算の早期予算も積んでいただいたような覚えがあります。

今はどう変わっているかということ、中小企業のPRであるとか、先ほど先生がおっしゃったようにこんな企業が福井にはたくさんあるんだよといったようなPRも、いろんな冊子を作ったりしてやったような記憶もありますし、今もやっているということで、25年

前にやっていることと今やっていることは、そんなに変わっていないのかなと。

僕自身は、こと雇用、Uターン促進というのはたかが雇用部局だけで済む話じゃなくて、福井県全体のその自力、力量が問われていまして、やはり衣食住全てセットされないとなかなかUターンに持ってこれないということがあるんだろうなと思います。その意味では総合計画の中で、県なり市を挙げてやっていかないといけない課題だと思っています。

それともう1つは、県にいた立場で言いますと、なかなか市町というのは、県がありその上に国があるので、その事業ごとの区分けというのが非常にやりにくい部分があるのかなと。要するに、県がやれば市町がやる事業というのはだんだん少なくなりまして、1つの事業をやるにしても、拡充とか、網掛けとか、そういったところで事業展開をやらざるを得ないということで、そこら辺の気持ちはよくわかるんですけども。今も県がUターンセンターをつくっているの、やはり福井市の立場としては、そこの連携を深めながら、いかにUターンを1人でも戻していくかということなんだろうなと思っています。

もう1つは、こういったUターンを促進させるのはどこの県も一緒だと思いますので、同じことも考えていると思うので、私はキーワードとしては、これからやはり女性の働き方、女性をいかに社会に取り込んで、登用させるかということに懸かっているんだろうなと思っています。

悲しいかな、福井県は共稼ぎ日本一ということになってはいますけれども、データを見ると女性の管理者に占める割合というのが、本県の場合は全部で10%にも届かない、全国で42位ということで低迷しているわけでございまして。優秀な女性は管理者に登用すれば、県外に進出した女性の方たちが福井に戻ってくる可能性も出てくるのかなと。Uターンの中でも、女子学生のUターン率が非常に低いといわれておりますので、どうもその辺のところはネックになるのかなと、こんなふうに思っております。

南保部会長

すみません。今の10何%というのは何ですか、女性の。

後藤委員

管理職に占める女性の割合です。

南保部会長

管理職率ですね。

後藤委員

日本は11%で、アメリカは43%ですよ。日本は11%ですけども、福井県は10%に届かないで、全国で42位ですよ。

南保部会長

低いということですね。

後藤委員

はい。また話は後にしますけど。

南保部会長

ありがとうございました。では、その女性を代表して、林委員。

林委員

本当に小さな話になるんですが、3つほどちょっと気付いたことがあります。

まず、後藤さんからお話があったように、女性の就業というところなんですが、私は女性起業家交流会のふくむすび会を運営させていただいて、あとは私自身研修講師をしていて福井県内の女性の研修をやる機会が多いので、そういったところから聞こえてくる意見としては、冒頭の南保先生のお話にもつながるんですが、若者が福井のいい会社を知らないというのと一緒に、福井の例えば子育てをやっと一段落したというような女性が、就職先を探すときに、あ、それだったら起業しようという人が多いのかなと思います。もちろん成功している人もいますが、安易に辞めてしまって、なかなかそんな起業というみんながみんな成功するものでもないのに、じゃあ、起業しようかという人もいます。

その1つの理由としては、いい企業がたくさんあるのに、なかなか探せていないというところかなと思います。もう1つは、これを見せていただいて、「帰りたくなるまち ふくい」を目指しているというのを、正直、私も初めて知ったというところがありまして。今頂いた4ページの資料、このデータがまさにそうなんだなとちょっと思った節があるんですけども。

みんながみんなではないと思いますが、子育てするお母さん世代から結構多数聞くんですけども、息子に、福井に帰ってくるような男になるなと育てているんです。それは雑談の中や交流会の中でも、結構聞ける意見かなと思います。それで女性よりも男性の方に転出が多い。だって、それは小さいときからそうやって育てていけば、福井の企業も知らないし、刷り込みというのがあるのかなと思うので、別の部会のところで、小さいところから福井っていいんだよとお母さんに言っていただけるようなかたちが、やっぱり必要なのかなと思います。

あとは、ふくむすび会の中である新聞社さんの取材があったときに話が出たんですが、女性はお母さんを見ているので、お母さんが仕事も子育ても大変なのを見て、結婚に憧れない娘だったり、福井の男性と結婚したくないうちの娘は言っているみたいなのところもあって、そういうところがこういうデータにも見えているのかなと、私は個人的に感じました。

南保部会長

ありがとうございます。

林委員

あと、今ちょっと思っていたんですが、ちょうど明日、女性起業家交流会ふくむすび会で、すごくにぎわっている金沢を視察に行こうということでバスツアーに行きます。そのときに、どこに行くか選別している中でいろいろ出てきたお話で、1つ共通するところがありまして。それは、福井からお嫁に行って、金沢で事業を営んでいるという女性数名から共通した意見だったんですが、金沢のおもてなしの捉え方と、福井のおもてなしの捉え方が根本的に違うんだろうなと感じているという意見がありました。

それはどういうことかと聞くと、全てが全てそうではないと思うんですが、おもてなしは、例えば観光という切り口だったら、来ていただく方が何を望んでいるかというところを、相手がきちんと感動とか満足していただけるようなかたちでおもてなしを用意しているけれども、その方々が言うには、福井のおもてなしというのは、こっちがこれはいいんじゃないかというところで、向こうはもしかして望んでいないおもてなしになっているんじゃないかというお話がありまして、それも一理あるのかなと思って聞いておりました。最近ちょっと取材というか、両方とも知っている方々からの意見というかたちで、ちょっ

と思うところがありまして。以上です。

宮崎副部長

結構いいところを突いています。

林委員

ありがとうございます。

宮崎副部長

というのは、福井にいい会社はあるんですよ。たくさんあるんですよ。ところが、こんなことを僕が言うとまずいんですけど、いい会社へ入ると福井で勤務できないんですよ、当然。みんなどこかへ行っちゃうわけです。どうせ福井にいられないなら、福井でいい会社に入るよりも、都会でいい会社に入ろうと、決断をされる若い人が多いんですよ。だから、福井にいい会社があるのを知らないんじゃないかと、知っていてそういう行動を取るという例があるというか、たぶんそういうことだと思います。

それから、共稼ぎが多いのに女性の活躍が足りんというのは統計で言っているわけじゃないですが、たいがいご主人が正社員で、奥さんはパートです。パートの女性が管理職になるようなあれじゃないですよ。だから福井の形態を見ると、共稼ぎ率は高いけれども、どうも女性は家計の補助的というか、サブ的に働いているというような例が多くて、福井は共稼ぎが多いんだから、それは女性をもっと登用しなきゃというの、ちょっと違うような。

もう1つ、今おもてなしのことでいいことをおっしゃいましたけれど、おもてなしもお客さんがもちろんいるわけですから、お客さんが全然期待をしていなかったことを期待するように応えるのと、期待して来て期待したとおりのサービスをするのと、それから期待して来て期待した以上のサービスをするのと、そういうので全然違うんですよ。福井のおもてなしはどこに焦点を当てるのかということなんです。

例えば、温泉旅館のおもてなしとディズニーランドのおもてなしとは全然違うんです。同じおもてなしといっても、質も違うんですよ。そこのところは、そういう意味で金沢と福井が違うというのだろうと思います。

南保部長

どうですか。野坂社長も何か、おもてなしの件で。

野坂委員

さっき言いすぎて、語弊があると困るんですが。農業政策で出されている内容と一番最初の施策の理念とが、あんまりマッチングしていないということを言いたかったので、この政策は必要かもしれませんけれども、みんなが希望が持てるとか、そういうことを言わんとしていることだけ、ちょっと誤解がないようにだけお願いします。

必要なことは必要なことかもしれないが、それでこの理念になるかということ、ちょっと懸け離れていたということで、ご理解いただきたいと思います。ちょっと言いすぎますので。

見谷委員

さっきから人口減少とか、高齢化が進んでいくとか、少子化とか、ネガティブな話ばかりで、これは、総合計画ですから、市長もよく言っている希望の持てるような、当然現実の数字とかそういうものは根底に置きながら、頭に置きながら、希望の持てるような政

策を出していかないと。最終的に財政的な問題も当然引っ掛かってきますけれども、それはまたそれとして考えて、希望が持てるようなものをやっぱり織り込んでいくような計画に、私はしていった方がいいんじゃないかと思います。

事務局（山田総合政策室長）

市長から言われているのは、福井のいいところっていっぱいある。そこをうまく伸ばすようなことで計画を作り、いいところを探すこと。そこを伸ばすのが非常に大事だろうということで、そういう観点でもこの総合計画、あるいは総合戦略なんかも作ってほしいという指示があります。

見谷委員

それと、私も家で百姓をしていて、ずっとここ16年間議員生活をさせていただく中で、農林漁業というのはほとんどが補助金清算みたいになって、国の施策というのはそういうものに振り回されてきているのではないかなど。よく皆さんも言いますが、福井独自のビジョンとかいろいろなことを言いますが、それがはたして本当に出ているのかなど。

今日も新聞に金福スイカのことが出ていて、食べたいなあと思いましたが、あれなんかも、十何年僕も今日までやってきて、ものすごくいいものだと思いますけど、最終的にあれが出ていくのは7,000個か1万個ぐらいの範囲でしょう。

事務局（山田総合政策室長）

一応7,000個を目標に今年。来年はまた1万個ということで。

見谷委員

だから、そういういいものが目に見えるようなかたちで取り組んでいけるような政策にしていかないと、あれもあのままにしていくとあのままに終わっていくような、横推移でずっと行ってしまわないか。今の時代、ものすごくいいと思うんですけども、そういう中で農林の政策で考えると補助金行政に頼りすぎていて、本当に市とか県、県の農業試験場とかすごく優秀なところもたくさんあるんですし、また今、コシヒカリに変わろうとする米の育種なんかもしている。そういうものをうまく市が取り入れて、福井らしい政策を作った方がいいかなという気がします。

宮崎副部長

その金福何とかって、1個いくらですか。

事務局（渡辺農林水産部次長）

だいたい1,000円から3,000円ぐらいの範囲で売られているんですけど。

見谷委員

中国あたりに持っていけば、5,000円か1万円で売れますよ。

宮崎副部長

僕が今それを言いたいのは、高く売った方がいいということです。いいものなら高く売らないと。安くてもいいんですというのは、これから全然通用しませんから。いいものは高く、付加価値を付けて売る。

事務局（渡辺農林水産部次長）

福井ブランドとして、金福スイカということで今やっているんですが、園芸農家さんの数とかそういうところに制約があります。

宮崎副部長

だから、増やさなくていいんです。高く売るんですよ。

事務局（山田総合政策室長）

三越を通して売っているとか、オイシックスで売っているとか、そういうことです。

宮崎副部長

だから、ブランドにしていまえばいいんですよ。

見谷委員

結局、たぶん5,000円、1万円で売って、もうかれば若いもんがどんどん作るんですよ。そうでしょう。

宮崎副部長

そういうことなんです。

野坂委員

労力に比べて儲かるか儲からんかがあるんですね。

事務局（渡辺農林水産部次長）

だから、今の農業でこちらに園芸とか書いてありますが、そういうものを含めて、米だけでは大変な部分が出てくると、米余りの中。そこで新たに園芸を取り入れて、そして少しでも今おっしゃった所得向上につなげていくというようなことで、今回は前回と違う部分は大きな部分になってきています。

見谷委員

それともう1つ、農業で、今法人化されてやっているでしょう。私が見ている限りではなかなか難しい。というのは、米価が下がってきて、法人化そのものの組織がもう高齢化しているんですね。もう今は、皆さんも知っているように田植えとか、稲刈りとか、ほとんど長靴やはだしで田んぼに入る時代じゃないですよ。だいたい機械で入れる。

昔は三ちゃん農業でじいちゃん、母ちゃん、ばあちゃんという、子育てが済んだちょうど40代、50代のそういう人が担えるような、機械力でやりますから、それでも十分やっと思えるんですよ。福井市中の田んぼを見て、機械を運転してるのは全部男性でしょう、だいたい。ああいうふうな軽作業というか、私らから見たらあれは運転するだけです。軽作業です。ああいうようなところへ、子育てが済んだような農家のお嫁さんとかそういう人が入っていきけるような施策というか、独自のものがいいか。

宮崎副部長

トラクターができましたよね、女性が乗る。座席が前後に動くとか。キセキだったかどこだったか忘れたけど。

見谷委員

誰でも乗れますね。

宮崎副部長

それから、米でも差別化しようと思ったらできるんですよ。今、はさ掛けなんてほとんどやっていないでしょう。はさ掛けして売ったら、全然味が違いますからね。

南保部会長

ちょっとここで一旦、今頂いたご意見をまとめてみたいと思うんですが。

まず1つ目に言えるのは、総合計画であつてもちゃんとPDCAサイクルを回しましょうということ、各委員さんが言っておられた。過去の検証というか、六次計画まで立てて、六次は結果が出ていないにしても、それなりに何か施策、事業計画に対して結果はどうだったのかという検証をちょっとだけ事務担当としてやっていただきたいというのが、大きな意見としてあつたのかなと。

それと2つ目が、同じ時間軸で将来どうなるのかと。人口減少も踏まえたうえで、税収、財政面で非常に厳しくなる中で、打てる施策が決まってくるだろうと。さっき山田室長は5年ぐらいだという話だったんですが、5年でも、3年でも結構かと思うんですが、これから先の財政見通しを。これは景気の変動によっても非常に変わりますから一概には言えない、あくまでも推計で結構かと思うんですが。極端な話、横ばい、増える、減る、何パーセントの間で表す、みたいな感じでもいいと思うんですが、その見通しを立てたうえでちょっと選択と集中で少し考える必要があるだろうというご意見があつたと思うんですね。

3つ目に、この「みんなが生き生きと働くまち」で挙げている3つの政策が、今、地域が抱える課題と合っているのかということも非常に懸念されると思います。今日は、私の頭の中では、この政策が本当にこれでいいのかというところの議論から始めたかっただけです。現状を把握して、そして現状を反映した政策がちゃんとこの3つの中に盛り込まれているのかどうかというところの検証をまずやりたいというか、やらなきゃいけないんだろうと思います。

私が言葉の使い方でもおかしいと思うのは、例えば一番上で「活力と魅力溢れる産業が、持続的に発展するまちをつくる」と書いてありますね。2つ目に観光、3つ目に農林水産業と書いてありますが、1つ目の産業の中に全部、観光も農林水産業も入ってしまうんですね。そこら辺、例えば産業ではなしにひょっとしたらこれは商工業、2次産業、3次産業の話を政策としてここではしたかっただけじゃないのかなということもちらっと思ったんです。

すると、どうも産業政策のレベルがちょっと合わないなというのがあつて、まずここから合わせていかなきゃいけないんじゃないかと思います。1次産業の農林水産業が1つ。あとは2次産業の分野で製造業、工業、建設業。3次産業のサービス業の中で、特に選択と集中でいえば、観光産業に着目してここをやっていくよというような考え方ですね。その産業間のレベルをうまく合わせたいので、下の施策につながっていくだろうという感じがして、まずは政策段階のここの、文言うんぬんでもないんですが、現状とのずれがないかどうかということ、委員の先生方からご意見を頂けたらと思うんですが、いかがでしょうか。

先ほど出た16～17のご意見は、事務局がメモしてあると思いますので。それは人口問題、女性の活躍、それからいろんな産業の活性化について。さっき言った過去の検証と将来はどうなるか、財政的にどうなるかというものを踏まえたうえでの政策展開が必要であると思います。

ここで掲げた産業、観光、農林水産業というこの3つの旗印でいいのかどうか。それが現状の課題を表した政策のテーマとして認められるのかどうかというところ、そこからまずはっきりさせたらどうかと私は思っているんですが、どうでしょうか。

「魅力溢れる産業が」と全部くくってしまうんですね、1次も2次も3次も。持続的に

発展するまちをつくりたいんだとわかるんだが、でも、この中身はみんなたぶん商工業のことが中心だろうなということが言えますね。2つ目は観光なんです。これは第3産業、サービスなんです。サービス業の中でも特に観光を中心テーマにおいてやりたい。それはそれでいいと思います。3つ目は1次産業にまた戻るんですね。

だから、1次、2次、3次でそれぞれ並べてあるんです。それはよくわかるんですが。並べるのは並べるのでいいので、1次、2次、3次の中で、どこを選択し集中していくかというところぐらいは、政策の中できちんと表した方が、次の施策段階のところでもわかりやすくなるんじゃないかなという感じが私はしたんですが、どうでしょうか。委員、先生方のご意見。

宮崎副部長

うちの常議員をされている野坂委員などと月に一度議論している中でも出てきているんですが、地域の経済を見る場合に1つの見方として、地域経済基盤論というのがあるんです。これは南保先生にはあれだと思えますが。

要するに、地域がこうあるとして、その中に企業がありますよね。その企業を性格によって大きく2つに分けるんですよ。1つの会社は、よそからお金を稼いでいる会社です。地域にお金を落とすわけです。もう1つは、落としたお金はその会社の従業員の給料とか何とかいろんなことで回りますよね、それを地域内で回す企業です。このように分けます。これは伝統的な昔からの考え方で珍しくないんですが、最近、中小企業庁あたりがこっちへ来て、中核となる、よそから稼いでくる会社をコネクターハブ企業とって位置付けています。

今、先生がおっしゃったように、小売りとかそんなやつは地域内で金を回すことですよ。今の商品券なんかは、そういうことに貢献しようという1つの政策ですよ。もう1つは、外から稼いでくる会社をどうするのか。これもまた産業政策としてあるわけです。それを一緒にたんにして、福井の商工業振興で元気にしようよっていくら言っても、これは何もならんわけで、せめてその区別ぐらいはしてやらないとまずいだろうなと思います。

中小企業庁がいわゆる「基本法」とか何かいろいろ改正して、先ほどどなたかがおっしゃった、99.4%が中小企業だからということで、それに焦点を当てていろいろ施策を組みだしました。補助金もそういったものにあげていますけど。もっと言うと、この内の90%以上は小規模零細なんです。福井で産業振興、商工業振興というと、いわゆる従業員5人以下とか、そういった企業に焦点を当てて産業を振興しなければならないわけですよ。そういった企業のほぼ7～8割は、さっき言ったように地域内で金を回す企業なんですよ。

それだけでいいかという、今度はよそからも取ってくる会社も振興しなきゃいけないというわけですから、そこのところをうまく仕分けをしてやるということが大事だろうなと思います。書かないまでも、せめて市としてはそのくらい頭に置いて施策を打っていくということじゃないと、まったく的外れになるんじゃないかなという気がします。

南保部長

専務さんのおっしゃったやつをさらに細かく言うと、さらに4分類できるんですね。県際交流型で、外から仕入れて外へ売っていかうという企業と、中で仕入れて中で売っていくというような内需型産業群と、外から仕入れて中で売っていく、中でつくって外に売っていくという4つに分類できるんですが。今伸びているのは、まさに外から仕入れて外に売るといふ企業で、もう域内との関係がどんどん薄くなっている産業群でしょう。

するともう問題は、その内需型で、中で金をもうけている企業をどう助けるか。助ける

という言葉はあれですけど、そこら辺を支援してもあんまり見返りが少ないというか。変な話が今、例えば売り上げ規模で30億円あるメーカーを上場企業にして倍にするのと、10人しかいない企業を倍にするのでは、同じ応援をしても結果が全然違ってきます。そこら辺が非常に悩ましいので。かといって、ほとんどの企業は、先ほど専務がおっしゃるような5人、10人以下の企業ばかりですから、そこは無視できないと。

そここのところを、さっきの野坂さんの話ではないけれど、ある程度それは選択と集中で、どこに重きを置いてやっていくかというのも決めていく必要があるのかもわからないですね。私もその専務の話からちらっと気が付いたんですが。じゃあ、福井市はいったい何があるんだと。これはまさに産業政策ですね、この部分は。その中で農林水産業もやり、2次産業分野もやり、そして3次産業分野もやるのかと。総花的にやるのか。

そうじゃなく、これからは農林水産が大事だねということで農林水産をやるのか、やっぱり福井の強みである2次産業分野を中心として、製造業を中心とした2次産業に力を入れるのか、それとも資源の少ない観光分野でそこを磨いていくのか、ある程度めりはりをつけた方がはっきりするのもわからないですね。

やる方もわかりやすいし、その結果としてどうでしょう、今までの過去の経緯をちゃんとやっぱりある程度見せるというか、それは必要だと思うんですが、どうですか、野坂さん。

野坂委員

私自身、本業は2次産業をやっているんです。観光の方もやらないといけない。観光をおろそかにするわけには。

南保部会長

確かに観光をやるんですよ。

野坂委員

だから、どちらかという与交流人口を増やして、お金を落とさなあかん。観光は大事ですと言わなあかん、常議員だから。

南保部会長

でも、福井県の中で福井市を見たときに、観光資源の脆弱さというのははっきりしているんですね。自然景観にしろ、食にしろ、歴史遺産にしろ、何を見ても福井市は勝てないんですよ、福井県の中でも。そこを磨いていくのかと。ちらっと私的には。

これから選択集中をやっていかなきゃいけないときに、野坂社長に怒られるかも知れないけど、そこまで観光で勝負できるか。確かに観光というのは経済の波及効果が高いから、他の産業に波及していくのは間違いない。観光産業の振興というのは、経済全体の活性化には必要不可欠というのは言える。

野坂委員

今は広域観光の時代で、福井市に魅力がないといっても、例えば永平寺と組んだり、勝山と組んだりしなきゃいけないので。福井市としては、そのときに金沢からバスで来てもらう観光では困るんですよ。福井市内としての魅力なり、宿泊施設なり、そういうおもてなしなりをきちんとやっていって、福井で泊まってもらうということをしないと。永平寺が良くても、金沢からみんなレンタカーで来てもらったのではだめという視点では、やることはあるんです。まずは二次交通の結節をどうするというは、ここではないかもしれないけれど、どういう具合に便利にするか、そういうことは観光では必要なんです。

南保部会長

そうですね。施策は。

事務局（山田総合政策室長）

産業のくくり方という観点だけでいうと、観光というのは別の観点もいわれるように、交流人口とか別の意味合いも非常に強いですから、それはそれで大事だなと思います。また、産業構造から見ても、サービス系というのは従業員数でいくと、福井市の中で2割5分は卸、小売りで働いています。あと宿泊、飲食でも10%近くが働いていますし、広い意味で観光といえば、産業構造的にも大きいものがあり、観光という切り口は大事なかなと。

2番目に製造が来て、製造の中でも福井市の特長は繊維。逆に言うと、農林の専門で働いている方は非常に少ないという現状はあります。くくり方は、商工業があって、商工業1つにしちゃうのがちょっと問題もあるんですけど、次に観光に行くと、また農林に行くという、そういう並べ方の違和感というのはあるかなとは思っていますが。

宮崎副部会長

観光は、ものすごいんですよ。だって、よそからみんな金持ってきて落としてくれるんですから。

事務局（山田総合政策室長）

全部外ですよ。

宮崎副部会長

うん。これは本当にすごい産業です。

南保部会長

例えば3つある政策のうち一番上の産業というのが、観光も農林水産業も含んだ広義の産業と捉えて、その下に施策をぶら下げる。それは商工業であり、観光であり、あるいは農林水産業でありという施策をぶら下げればいいのか。その中で、特に中心テーマとなる観光と農林水産業という2つの政策を立てるということであれば通るかなと。通っておかしいですけど、理屈的におかしくないのかなという感じはするんですが。

見谷委員

おっしゃるように観光施設はあるけれど、福井市には磨きをかけるようなこれといったものはない。だけど、われわれが現状の農林業を見たときに、例えば周りは自然じゃないですか。これが荒廃してしまったり、そういうものが砕けてきたときに、観光とかそんなことは言ってもらえないんじゃないか。

やっぱり1次産業というものをどうやって維持していくかといううえで、こういう観光産業とか、景色とか、また農林業の持つ多面的な機能を維持していかないと駄目だというのは、これは大きな課題じゃないかなと思うんですね。

野坂委員

僕が言っているのは、観光が大事というよりも、お金が落ちるということでは必要で。福井市内に魅力がないからなんですよね。でも、例えば『ミシュランガイド』で永平寺は星2つになったとか、恐竜博物館やいろいろな周辺にはあるんだから、その利便性を高めることとか、宿泊をわざわざ金沢から来てもらえる、福井に泊めるような施策をすることも大事ですよと言ったので、農業と比べてどうかそういう意味ではないです。

宮崎副部長

農業はもう付加価値ですって。さっき言った何とかスイカか、あれを高くするとか。米でも、さっき言ったように、福井に行ったらみんながはさ掛けだというぐらいのことをやったら、日本中で800万トンぐらい米ができますけど、それはやっぱり福井の米を買わないとだめだということになりますよ。それは今、兼業農家でそんなことやってられるかということだから、それも仕方ないので、それをどうするかということを考えないと。

野坂委員

一度検証した方がいいという話が出ていたんですが、全てできるわけではないだろうと思うので、特に大事な部分として、農業の場合魅力とかいろんな話になると、ブランディングして、今の金福スイカではないけど、そういうことをやっていく必要はある。いろいろなものはあるんですけど、六次にはもう消えてしまっているんですが、五次までは何か特産品を作りたいとかがあったんじゃないかなと思うけど。なぜできなかったのか。魅力あるものにするとか、将来楽しみがあるんだったらそういうことをやらなアカンとは思いますが、そこがなぜできないのかということに関しては検証してほしい。

それから、後藤委員さんもおっしゃられるように、戻ってこいといっているような施策をしたけど、残念ながらどんどん悪くなっているというのが現状。これに関してだけは、かなり検証する必要はあるんじゃないかなと思います。また、作るうえでU・Iターン就職の促進とか、ある程度もうちょっと具体的な施策の内容がきちんとうたわれるようにしていかないと、それだけ言っただけの通り一遍の施策では、第七次でも同じじゃないかというおそれを感じます。

だから、難しいのはその施策だけではなくて、見谷さんがおっしゃるように企業だけじゃなくて、総合的な魅力がないと福井に戻らないという問題もあると思いますので、そこもここだけの施策で済むわけでは決してないけれど、なぜそのような現象が起こったかに関して、今申し上げたこの2つぐらいについては検証をぜひお願いしたいなと思います。

宮崎副部長

僕は昨日、おとつ、高崎でちょっと会議があったもので行っていたんです。そこで見たら、高崎市というのはご存じのとおり、東京と普通の電車でも50分ぐらいなんです。住む人が増えてきて、人口が増えてるんですよ。人口は増えているんですが、いわゆる学生が6,000人出ていって2,000人しか帰ってこないんです、結局。

野坂委員

仕事でまた戻って、後から帰ってくるのもいるとか。

宮崎副部長

だから、その筋だけ追っ掛けても一筋縄ではちょっとなかなか難しいということ。あの辺はもう東京のベッドタウンみたいになっていますから、若い人がそれでも帰ってこない。

野坂委員

見谷委員さんのおっしゃるように、将来希望が持てるんだったら、人口を減らすのをどうやってこういう政策でやるかとか、農業でこういうことをやったら魅力があるんじゃないかというものがうたわれていないと、全然楽しみのない計画になるのだけは間違いない。簡単ではないと思います。

宮崎副部長

だから、要するに知恵を絞らないとだめだということです。

南保部会長

どうでしょう。さっきから私が言っていますが、政策のところの文言といたらおかし
いですが、これはこのままでいいのかどうかということなんですね。確かに前の検証もで
きていないし、将来の予測も出ていない中で、これでいいのかということを今、なかなか
結論は出しにくいかもわからないんですが、そこら辺不合理な点がなければ、これでいい
とおっしゃればそれでいいし、どうでしょう。

野坂委員

そこまで一言一句細かく言っているわけではないので。個別の文言まで今日は。

南保部会長

そこまではもちろん難しいですが。よくよく考えてみると政策、施策ではなくもっと下
の事業計画の話で、リアリティーのあることを考えるような部会であった方が、よっぽど
未来につながるのかなとはちらっと思いましたね、今までのお話を聞いて。

先ほど林委員が、福井人って子どもにあまり帰ってくるなど言ってるんじゃないのとお
っしゃいましたけど、まさにそのとおりで。福井人というのは歴史や文化を打ち消してき
たところなんです。石川県というのは歴史、文化をつくり上げてきたところなんです。そ
れは何でかという、昔の話をすれば、越の国というのがあって、そこから718年に能登
国が、823年に加賀国ができるんです。ということは、越の国の中の越前というこは、
石川県も含んでいたんだということを子どもたちに教えると、すごく子どもたちは喜ぶん
です。ええ、福井ってすごいなって。

実は、石川はそこから歴史と文化をつくり上げていったところなんです。それをうまく
やったところが石川で、そこら辺で福井ともすごく意識上の差が出てしまった。だから
それは産業界とか、自治体とかいう問題じゃなく、世帯ベースの話になっちゃいますよね。
各世帯が子どもの教育、知・徳・体全部を学校に任せて知らん顔をしてしまっている、そ
の家そのものの教育というのはどうなのか。

教育の話をすると「みんなが学び成長するまち」の方に入っちゃうので、ここで議論す
ることではないんですが、そこまでやっぱり産業政策もいかないと福井が変わっていか
ないんじゃないかなと。魅力的な企業があり、魅力的な産業があり、魅力的な歴史があり、
そういったものはあるけれども、全然知らないままに育って、最後に駄目押しで親が、お
まえ、もう帰ってくるな、東京で就職しろみたいなことを言うてしまうから、若い者がだ
んだんいなくなっちゃうというこの現実があるのかなみたいなことを、私は思うんですが。

とんでもない話になっちゃいましたけど、議論がちょっと横に行っちゃいましたが、そ
んなことをちらっと思います。

野坂委員

そんな悲観的なこと。

南保部会長

だから、どこに夢を持たせるかということをやっぱり考えていかなきゃいけない。

野坂委員

確かに福井県内は、福井市よりうちは進んでいるというのはどうか知りませんが、
鯖江なんか割合結構うまくやっている、はたから見ると感じます。女性も、若手の人も

いろいろなまちづくりに参加させたり、デザインでやろうとか、新しいコンセプトでやろうとか、いろんなことをやっているの、やり方次第で福井市もあるとは思いますがね。

南保部会長

要は、私は悲観的な考え方はやめておきましょうという話で言っているだけで。

野坂委員

だから、福井の人間はみんな否定ばかりしているということはないとは思いますが。

南保部会長

そういう歴史もあったんじゃないかなというところがある。この産業施策のところでは、さっきから何回も委員さんからも出ている、将来希望が持てるような施策にしないといけないわけなので、最後の計画段階でもいいんですけども、何か少しそんなのが入ったらいいんじゃないかなと。

それと、やっぱりリアリティーがある計画じゃないと駄目なので。夢を語るのもいいけれど、夢が現実化していかないとダメなので、そこら辺もちゃんと見据えたうえでの計画にしないとダメかな。そんな感じはしました。

野坂委員

それに関しては、宮崎さんがおっしゃるようにもっと知恵を絞って、他の事例とか成功事例を調べたうえで、実際にやる内容としての施策はきちっとやっていかない。やろうという気持ちがないことには、できることだけ書いたのでは、何もやる必要もないという気がするけど、私は。

南保部会長

実施計画段階できちんとリアリティーがあって、夢があるような計画を載せていくということかなと。

見谷委員

役所として、これが1つの指針として、今日まで来ていることは事実なんだね。

事務局（山田総合政策室長）

そうですね。六次の場合に近い形にしていますから、そうやってやっています。

野坂委員

あんまり抽象的すぎてというよりは、成功事例を見て、こういうことをやってほしいということ、少し付け加えたような形で書いてほしいという気がします。

事務局（山田総合政策室長）

次回になりますけれど、総合戦略の中は結構具体的な事業名を入れて、それとつなげて、人口減少が一番上に課題としてあって、そのための事業が最後に来るような話がありますので、そんなところをご議論いただきながら、その辺をどう取り入れてもらうかというのも、ちょっと具体的な、市が考えていることを少しご披露したいと思っています。

野坂委員

U・Iターンの、どこか他の市の事例等、うまく成功しているところの事例はどこですかね。

事務局（山田総合政策室長）

U・Iターンも帰住センターとかいろいろありますし、福井県が今年の6月に移住、定住の促進機構という、福井市も参加しているんですけども、そういうところで、福井市だけじゃなくて全体としてやっていこうとしている。ずっと前から帰住センターというのがあって、年間県内で300人ほどそこを使って移住しているとか、福井市内でも100人ぐらい来ているとかそういうのはありますので、そこをさらに強化していこうとか。

今、U・Iターン政策では、福井市は独自に県外の学生を呼んで、5泊6日の合宿で市内の企業を見ていただいて、福井のよさを、企業のよさを知ってもらおうとか、そういう新たな政策を考えたりとかしています。

野坂委員

すみません。石川県金沢市の近郊のまちで、人口が増えているところはあるんですか。

事務局（山田総合政策室長）

野々市とかありますけど。

野坂委員

金沢もベッドタウンでもあるんだけど、結構流入させる施策があるかもしれない。そういう他の成功事例というのは、福井で一生懸命やってもなかなか成功しないかもしれないけれども。

事務局（山田総合政策室長）

国は盛んに地方創生の成功事例集みたいなのを作っていますけれど、いろいろありますので、使えるやつ、使えないやつ、なかなかそのままはないのかなと思っています。

野坂委員

少しでもやっぱり戻らないと。

南保部会長

近場で産業立地なら白山市がすごく増えましたから、あれは近場の成功事例で使えるかなとは思いますがね。

事務局（山田総合政策室長）

産業団地をつくってやっています。

南保部会長

福井はやっぱり臨港の方に頼りすぎたというのがあるんですよね。臨港で結構来ましたからね。あそこでだいたい成功したみたいな感じがあって。

事務局（山田総合政策室長）

そうですね。化学産業は全然なかったのが、化学産業が今、製造業の2番目に来ていますから。

野坂委員

坂井市やいろんなところに遠慮をしていたのかもしれないけれど、これだけ人口が減少しているなら、福井市自体がやらかなあかんという危機感を持ってほしいと思う。

南保部会長

やっぱり産業立地というのは永遠の課題です。それと、一部上場をたくさんつくらない

と若い者は集まってこないで、そこら辺はやっていかなきゃいけない。それと、さっき宮崎さんがおっしゃった産業間の違いが出るような施策を打っていくということで、内需型企業にはこれが必要なだろうと。内需を増やすための施策。

県際交流型、外に出て行く企業に対してはこういうような支援とか、あるいはその中間企業にはこういうような支援とか、それが産業間でもいろいろまた変わってきて、農林水産業に対しては、特に水産業あたりはもう船なくしては立ち直れないので、そこら辺を強力に支援していくようなことをやったり、私は農業のことはよくわかりませんが、農業についても何か打つ手はあると思うので、個別的にもうちちょっと現実味のある施策というか、事業計画というか、それを落としていった方が、泥くさくても内容が伴ってくるのかなという感じはします。

きれいな文言で、「自然・活気・誇りにみちた 人が輝く かえりたくなるまち ふくい」って非常にいいんだけど、だったらどんなまちなのって言われたときに、それにぶら下がっているものは何もついてこないようなのでは駄目なので。せめて産業の「みんなが生き生きと働くまち」の下にぶら下がってきているところだけは、少しリアリティーのある施策を考えるというか。それは過去の検証から何か出てくると思うんですよね。ベンチャー支援とか、第二創業支援とかで成功したものをさらに膨らますとか、観光も同じように、看板も中国語とか、韓国語も入れて書いてもらおうとか、そういうことをやっていきますみたいな。

野坂委員

ターゲットを考えていく必要がある。

南保部会長

そうですね。ターゲットに合わせて、何かちょっとリアリティーのあることを次回までに少し私たちは考えなきゃいけないのかと。山田室長さんは大変ですけど、過去のそういう総合計画の中でちょっと検証だけしてもらって、どんなことがうまくいったのか、どんなことがうまくいかなかったのか。うまくいかないけど、当局としてこれはやっぱりうまくやりたいというのがあれば、先ほど見谷委員もおっしゃったように、やりたいという課題をたくさん出していただいた方が、私たちもそれで考える時間ができますので、それをやりながら何か少し現実味のある中身に変えていけたらなと思います。

林委員

リアリティーのあるというところで、この間のふくむすび会でバスツアーを構築しているうえで、1つちょっと聞いたお話です。調べていらっしゃるかもしれないんですけど、金沢市にイート金沢（eAT KANAZAWA）という19年ぐらい続いているイベントがあるそうなんですけれど。アートとか、クリエイティブに特化して、日本とか世界でトップクラスの人だけをイベントに呼んでやっているらしいんです。

その19年間の中で、10年目ぐらいから関わっている宮田人司さんという人が、金沢に4年ほど前から住み始めたらしいんです。それは本人が住み始めたのかどうなのかわからないですけど。ボーリングのピンでいうとヘッドピンになるような、1人が倒れたらみんながついてくるような人が、金沢市に住み始めたということで、全国から会議のたびに金沢に来るとか、その人に会いにすごい人が来て。

今、彼は若手企業家を育成しているらしいんですけども。全国から宮田さんに会いに来るので、若手企業家もついでにいろんなことを教えてもらう機会があって、すごい伸びているみたいなことを聞いて、福井の中の強みを生かせる、そこにピンポイントでヘッド

ピンになるような人に住んでもらえれば。

南保部会長

そういう奇抜な施策も必要なんでしょうね。

野坂委員

あと、産業の中で、前回あまりITとか情報化ということに関しては触れていなかったと思うんですが、県内だけを取り上げると結構ネットでやっていて、成功事例が福井は多いんです。そういうものには支援するとか、そういう環境を整える施策をやっても面白い。魅力をそこでつくっていくんです。どちらかというに見出しみたいなの、こんなことは新聞のネタになりそうな話かもしれないけれど。

別に、立地はネット販売だったらどこでもいいので、福井市はネットが起業しやすい。県の産業支援センターがよく頑張っているというのは承知しているんですけど、県ばかりに任せずに市の方にもというのは感じます。

南保部会長

あそこのオールコネクトみたいな、ああいう会社の話ですか。

野坂委員

いろいろあります。メッキ屋さんもあるし、家具屋さんもあるし。

南保部会長

各業界の中のネット？

野坂委員

ネットで全国に売っている。成功事例が結構あるので。これからの若者の創業を伸ばすとかという、女性でもできるというのがありますし。いいんじゃないかなと思う。

事務局（山田総合政策室長）

オールコネクト社は、ピンポイントで市が、外に出ていくという話を福井にとどめて立地させたというところはあるんですけども、そういうITの推進という施策でやっているわけではなかったんですが。

野坂委員

商工会議所で話題になったのは、ソフトをつくるような会社が福井は頑張っているという話が出ていましたけれど。

事務局（山田総合政策室長）

鯖江なんかは今結構、やられています。

野坂委員

これからの時代、そっちに行ってもいいかもしれない。

事務局（山田総合政策室長）

市の方でも今のいろいろなお話を聞いて、政策のくくり方は、部会長が言われるような大きなくくり方の考え方もちょっと整理したいと思います。施策のところであんまり具体的になっていないやつを、この産業のところは一番最初にも言いましたが、もう少し具体的な実施計画に入っているようなところもこの施策の方に取り出してわかりやすくする、

それが総合戦略にもつながるんですけれども、そういう工夫を事務局としても考えていきたいなと思います。

南保部会長

他はどうでしょう。何かありましたらどうぞ。まだ若干時間がありますので。

個別の意見としては20ぐらい挙がっていると思います。今までのこの計画自体にリアリティーがないとか、過去の事例を探せとか、人口から税収がどうなのか見通しがわからないとか、選択と集中をしなきゃいけないがどこにしたらいいかわからないとか、これまでの検証をしろとか、観光はどういう位置付けでやるのか、農林水産業はどういう位置付けでやるんだとか、委員から私が記述したので18ぐらい出ているので、1回それを箇条書きで挙げて、それで少しくくりつくとだいたい大きな流れが出てくると思います。

事務局（山田総合政策室長）

今日出たそういう論点みたいところは整理させていただいて、また事前に委員の皆さんにもお渡ししたいと思います。それを受けてまた次回、いろいろとご議論を頂きたいと思います。

南保部会長

これ、何回でしたっけ。3回ですね。

事務局（山田総合政策室長）

何回でもいいんですけど。

南保部会長

私はいいですけど、皆さんがお忙しいかと思って。他はよろしゅうございますか。何か言い残したことございませんか。

野坂委員

さっきの話の、よそから仕入れて売るという話もネット販売なんですけど、やっぱりその立地条件を福井が育成するために何をするかを考えていっていただくと、立地しやすい、起業しやすい、支援しやすいとか。

南保部会長

それはいいかもしれませんね。

野坂委員

そういうのをちょっと。

南保部会長

目玉をつくらなくちゃ。

野坂委員

目玉かどうかわからないけど、福井市はIT産業や情報化産業を支援するんだなというところわかりやすいですって。農業でもブランディングしてこういうのでやるんだといたら、この方が目玉になるので。用水路つくるとか護岸工事をするのでは、なかなか目玉にならない。こんなことを言ったら大変失礼だけど。

南保部会長

六次化といっても、成功しているんですかね。

事務局（渡辺農林水産部次長）

まだです。

南保部会長

ないでしょう。だからそれも、見谷議員を前にして何だけど、生産者主導の六次化というのは難しい。どちらかという流通とか。

野坂委員

藤島ゴルフ場の近くに、結構頑張っていらっしゃるところがありますけれども。

南保部会長

あそこはもう30年ぐらいやっているでしょう。生産者を200か300束ねていると思うんですが、それまでかなり苦勞していますよね。それに時間がかかりすぎたというのはあると思いますけれど、頑張っはいらっしゃる。

宮崎副部会長

いろんな形態がありますよ、六次化の場合は。皆さん一番よく知っている、石川のスギヨファームなんかは、かまぼこ屋ですけど、別会社をつくりましたよね。あそこの社長が勝山出身です。養子で入った。

野坂委員

あと、永平寺町が、確か今度森ビルと何かやることになったらしい。

それから、イオンを芦原町が誘致して、イオンファーム（福井あわら農場）がある。あの辺も結構。

宮崎副部会長

それから、カナザワファームだったかな。あれなんかは、子どもを集めて農業体験をさせたり、宿泊させたり。その人は金沢でしたよ。結構大規模にやっていますよね。

見谷委員

生協がまたやる。

宮崎副部会長

だから拾っていけばあるんですけど、全体的にうまくいっているのかというと、なかなか厳しいなという話です。個別には結構一生懸命やっている。

南保部会長

付加価値の産業でいうと、やっと全国並みになったんですね。今まで農林水産業というのはコンマ1ぐらい低かったんです。でも、一番新しいデータを見るとやっと全国平均になったというところがあって。たかがコンマ1ですけども。でも、やっと全国水準になれたなという感じはします。

宮崎副部会長

福井県は、オランダの会社誘致とか。トマト作り。もう完全に、それこそ今のITで全部制御して。NHKでやっていたでしょう。朝にちょっと行って、ちょいちょいとやって

いれば、もうそれで帰れますよみたいなのをやっていたんですが、あれを誘致してやろうかと。かなり投資も掛かるようですが。議会はいつでしたっけ。やりますから。だから変わりつつある。

それから、小浜とか大飯、高浜ですか、あれなんかも越のルビーのやつ。あれは1億5,000万円掛かって1億2,000万円ほど補助金があるので、やりやすいといえばやりやすいんですけども。買うところは、大阪の市場で全部買いますからという話です。売り先を探さずにやったんですけど。

それから、ご同業でもないけれど、繊維関係のウラセさんなんかはコケをやっていますよね。屋根の上のコケをやっています。どこから取ってくるのと聞いたら、山へ行って取ってきては乾燥して、枯れたみたいに見えるけれど、コケというのは死なないので、また水をかけるとまたばあっと生えてくる。売れてるかどうか知りませんが。

南保部会長

野菜工場は駄目なんですか。嶺南の方は電力が安い。

宮崎副部会長

電力は安いですよ。やっぱり補助金が入らないとなかなか。一から立ち上げるのは結構厳しいだろう。

事務局（渡辺農林水産部次長）

こちらでは清川メッキさんですね。

宮崎副部会長

バジルです。この間も会長にもうかっているのかと聞いたら、もうかってはいないけど出荷しているんだと。

事務局（渡辺農林水産部次長）

もうかってはいない。

南保部会長

あそこは従業員対策もあるんですよ。そういうところでちょっと従業員の方に働いていただくという。

宮崎副部会長

バジルというのは、狙い目はいいんですよ。

野坂委員

いろいろ農家の方は反発があるかもしれないけれど、そういう法人の参入をさせるというのもおもしろい。清川メッキさんもそうですが。

宮崎副部会長

だから六次化と一言で言いますが、会社によっていろいろな形態でやっている。

5. まとめ

南保部会長

ありがとうございました。結構いろんなご意見も出まして、この基本目標3に対するご

意見をたくさんいただきました。今日また事務局に整理していただいて、大きな目標としてはリアリティーのある政策、施策、事業計画を立てましょうということなので、そのための過去の検証と将来予測というのをちょっとやっていただくこと、IT計画が幾つか今出ましたので、そこをちょっと調べていただいて、次回につなげていただければと思いますので、事務局は大変でございますけれども、山田室長、大変ですが、またよろしくお願ひいたします。

そんな感じでマイクを事務局にお返ししたいと思います。よろしくお願ひします。

6. 閉会

司 会

どうも貴重なご意見をありがとうございました。

それでは、次回の専門部会の日程についてご連絡させていただきたいと思います。次回ですが、8月4日火曜日になります。14時から開催させていただきたいと思います。会場の方はまだ決まっておられませんので、あらためて正式に通知をもってご依頼させていただきます。

では、長時間にわたりましてどうもありがとうございました。また次回、ご出席のほどよろしくお願ひいたします。ありがとうございました。

(以 上)

第七次福井市総合計画審議会 第1回専門部会 出席者名簿

第3部会 産業分野

※委員50音順、敬称略

		氏 名	備 考	出欠
福井市総合計画審議会	部会長	南保 勝	福井県立大学 教授	○
	副部会長	宮崎 和彦	福井商工会議所 専務理事	○
	委員	片川 正美	福井市農業協同組合 指導販売部長	×
	委員	後藤 清範	福井労働局 公共職業安定所長	○
	委員	高原 裕一	(特非) アントレセンター 理事長	×
	委員	野坂 鐵郎	福井観光コンベンションビューロー 理事長	○
	委員	林 美里	女性起業家交流会 ふくむすび会 会長	○
	委員	見谷 喜代三	福井市議会	○
市	総合計画策定会議	三谷 清	都市戦略部	○
		倉 美幸	商工労働部	○
		渡辺 知幸	農林水産部	○
		山田 幾雄	総合政策室長	○
	事務局	山本 誠一	総合政策室副課長	○
		塩谷 靖喜	総合政策室主任	○
		山口 秀明	総合政策室主幹	○
		落合 大輔	総合政策室主査	○
		松田 佳恵	総合政策室主査	○